

国語国文学会だより



No. 33

2005. 9

日本文学科卒業生の会

国語国文学会 春の総会・研究発表会報告

平成十七年度春の総会・研究発表会を六月二日（木）、百年館低層棟五階百五〇六教室にて開催しました。

◆第一部 総会

(1) 国語国文学会会長挨拶

清水康行先生

(2) 奨学金授与

日本女子大学日本文学科賞（奨励賞）

学部四年次 鈴木ちよ氏

博士課程前期 岩崎みどり氏

上村悦子賞

院博士課程前期二年次 山田亜希子氏

院博士課程後期三年次 沖 奈保子氏

(3) 国語国文学会委員長挨拶・役員紹介

（学生の会・卒業生の会）

(4) 平成十六年度活動・決算報告及び承認

(5) 平成十七年度活動計画案・予算案及び承認

(6) 自主ゼミ発足（学生の会・卒業生の会）承認

◆第二部 活動報告と研究発表

本年度交換留学生紹介

オレゴン大学（四年次）チブマン、マリア、ジェイ

ネイゲル、アリッサ、パーワーズ、ロラ、ジェイ

（三年次）デューガン、モラ、ケイ

ウェルズリー・カレッジ（三年次）ルーシー、シャ

ノン、ティーワイ、チャン、リン、ディビー

秋季大会・公開講演会のご案内

▼日時 平成十七年十一月二十六日（土）

▼公開講演会

題目未定

青木玉氏

☆講師略歴

青木玉（あおき・たま）

一九二九年生まれ。東京女子大学国語科卒業。祖父は作家の幸田露伴、母は同じく作家の幸田文。一九九四年、少女時代の回想録「小石川の家」（講談社）が芸術選奨文部大臣賞、その他受賞。主な著書に「こぼれ種」「幸田文の筆筒の引き出し」「手もちの時間」「上り坂下り坂」「庭のない家」「なんでもない話」「帰った家」など。

▼講演

『萬葉集』を読む

―坂上郎女歌の方法―（仮題）

本学教授 平舘英子氏

▼懇親会

十六時四十五分～十八時三十分

於 ウイミン（予定）

会費 三千元（学生千五百円）

* 研究発表会 十一月二十六日午前

発表者募集

詳細は四面参照

〈報告〉

・今と昔のヒット曲の共通点(前期)
・近畿地方の方言(後期)

日本語ゼミ 学部二年次 柏葉智子氏
・「高野切古今和歌集」について

卒業生の会平安文学談話会 古筆の会
博士課程前期二年 中原裕子氏

〈研究発表〉

・『義経千本桜』における合作者の執筆分担

新55 森田みちる氏

・『古事記』の動詞の意味論的表記論

行・往・到・至・渡・度・返・還

二〇〇四年度日本文学科賞・学術賞

新55 佐藤麻衣子氏

平成十六年度国語国文学会(卒業生の会)活動報告

(1) 総務

・回生委員会・常任委員会の招集

・春季総会・研究発表会の開催 五月二十七日(木)

(2) 企画

・自主ゼミの活動

(平安文学談話会・皇女研究会・古代中世文化論)

・秋季大会の開催 十一月二十七日(土)

研究発表大会・総会・講演会・懇親会

(3) 会計

・会費納入の確認

・収支・運営・備品の完備など

(4) 編集

・「国語国文学会だより」春の大会報告号

三十一号(九月)

・はがき通信 四月(春の総会案内)

・はがき通信 十月(秋季大会案内)

平成十七年度国語国文学会(卒業生の会)活動計画

(1) 総務

・春季総会・研究発表会の開催 六月二日(木)

(2) 企画

・自主ゼミの設立

・秋季大会の開催

研究発表大会・総会・講演会・懇親会

・文学散歩の実施予定

(3) 会計

・会費納入への協力依頼

・活動充実のための備品の整備・購入

(4) 編集

・「国語国文学会だより」の発行

秋の大会報告号 三十二号(四月)

春の大会報告号・秋の大会案内号(九月)

・はがき通信 十月

日本女子大学国語国文学会卒業生の会 平成16年度決算報告(平成17.6.2)			
【収入の部】		(円)	
項 目	予 算	決 算	増 減
前年度繰越金	104,949	204,949	
会 費	600,000	606,607	
利 子	0	1,900	
寄 付	0	2,119	
計	704,949	815,575	
【支出の部】			
通信費	270,000	291,930	△ 21,930
文具費	3,000	373	
コピー代	5,000	2,470	
会報印刷費	75,000	91,750	△ 16,750
名簿作成費	100,000	0	
委員会活動費	56,000	46,475	
・委員会費	(15,000)	(10,475)	
・交通費	(36,000)	(36,000)	
・行事費	(5,000)	(0)	
ゼミ費	30,000	30,000	
秋季大会費用	100,000	114,267	△ 14,267
・講演料	(60,000)	(55,000)	
・諸経費	(40,000)	(59,267)	
慶弔費	5,000	0	
パソコン関係諸費	40,000	49,169	△ 9,169
予備費	20,949	0	
計	704,949	626,434	
次年度繰越金 ￥189,141			
上記の通り決算報告致します。			
会計 津田 英子 斉藤 令子			
監査の結果、上記決算報告が正確であることを認めます。			
監査 金石 教子 多田 孝子			

平成十七年度常任委員

総務 児玉久美子(46) 土橋ユリヨ(新31)

藤木直実(院31) 稲田千恵子(院33)

企画 立川和子(新1) 関根緑(44)

平山静(新34) 小長井晃子(院33)

会計 津田英子(新6) 斉藤令子(新6)

編集 倉田智子(新31) 中田和子(院27)

福原房枝(新28) 黒川晴美(新33)

斎藤視知(院35)

監査 金石教子(新12) 多田孝子(通30児)

◆お知らせ

『国文目白』第四十四号(石田敏子教授退任記念号)ができました。ご希望の方は葉書で左記までお申し込み下さい。

〒一二二八六八一 文京区目白台二八八一

日本女子大学日本文学科研究室『国文目白』係

代金は、冊子到着後に払い込んで下さい。

(送料別 千四百円)

国文目白第四十四号

中・高校生の会話管理……………石田敏子

—「話し合い」における終助詞運用の観点から

インターネット・チャットを利用した外国語としての

の日本語教育……………池田伸子

新書の文章における「ようだ」の用例について

……………鈴木庸子

—日本語教育の観点から—

「ば」と名詞につく「なら」の関係について

日本女子大学国語国文学会卒業生の会 平成17年度予算(平成17.6.2)	
【収入の部】	
項 目	予 算
前年度繰越金	189,141
会 費	600,000
計	789,141
【支出の部】	
項 目	予 算
通信費	270,000
文具費	3,000
コピー代	5,000
会報印刷費	100,000
名簿作成費	100,000
委員会活動費	56,000
・委員会費	(15,000)
・交通費	(36,000)
・行事費	(5,000)
ゼミ費	30,000
秋季大会費用	100,000
・講演料	(60,000)
・諸経費	(40,000)
慶弔費	5,000
パソコン関係諸費	50,000
予備費	70,141
計	789,141

……………江田すみれ

接続助詞「ものの」における「文法化」と「語用化」

……………田辺和子

副詞「ちよつと」の意味構造……………藤原浩史

明治初期の大新聞に見る助動詞「です」の様相……………長崎靖子

……………長崎靖子

—明治初期の小新聞との比較から—

「使用意図」から見る自然談話における「なんて」

「なんか」の意味的特徴……………鈴木理子

〈2つの「意図」を捉えるための一考察……………山本直美

—「話し合い」場面において—

文脈指示の「こ」「そ」の選択要因……………前田佳奈

—強調の「こ」の使用動機—

分裂文と非限定的連体節の話題導入機能の違い……………清水まさ子

近代における終助詞「かしら」の女性語化

……………八下田真美

伝為兼卿筆本『続拾遺和歌集』……………平館英子

難波津の落書……………八木京子

—仮名書きの文字資料のなかで—

簗葉信弘著『ケリー博士の死をめぐるBBCと英政

府の確執

—イラク文書疑惑の顛末……………みなもところう

研究室だより

○平成十三年度より本学学長・理事長を御勤めの後藤祥子先生が、昨年末、再選され、本年度より四年間、引き続き学長・理事長として本学を担っていらつしやいます。中古文学担当教授として学部・大

学院の授業もお持ちになっています。

○ 近代文学担当の高橋智子先生が、平成十七年三月をもって退職されました。先生は、本国文学科・大学院日本文学専攻、東京大学大学院で学ばれた後、平成七年度より本学科の専任講師・助教授として研究・教育指導・学内運営に力を揮われ、今後一層の活躍が期待されていましたが、昨年来、体調をくずされ、長期欠勤の後、年度末をもって退職なさいました。これまでの御尽力に感謝申し上げると共に、御本復と御活躍とを心よりお祈り申し上げます。

○ 昨年度後期、サバティカルを取られていた谷中信一先生（中国思想史）が、御帰任にられました。○ 本年度は、田辺和子先生（外国人留学生特別科目）が、英国ロンドン大学での研修に出られています。

○ 他の先生方は昨年と変わりありません。

平舘英子先生（上代文学）

石井倫子先生（中世文学）

児玉竜一先生（近世文学）

倉田宏子先生（近代文学）

源五郎先生（近代文学）

藤原浩史先生（日本語学）

江田すみれ先生（日本語教育学）

田中功先生（図書館情報学）

清水康行（日本語学）

○ 専任助手は、白石美鈴さん、溝部優実子さん、

八木京子さんで、昨年と変わりありません。

○ 非常勤助手は、小林美恵子さん（本年度より本学非常勤講師）から渡部麻美さんに交替しました。

○ 昨年度末の三月十二日、文学部企画（日本文学科担当）の学術交流講演会「江戸・東京の文学と文化」が開催されました。本学科卒業生の神田由美子（東洋学園大学教授）、湯川説子（江戸東京博物館学芸員）、津田眞弓（本学科講師）、長崎靖子（本学科講師）の各先生と河竹登志男先生（早稲田大学名誉教授）による講演、児玉竜一先生による映画上映と解説を通し、江戸から明治への変遷が様々な角度から語られ、昨年度秋に竣工なった新泉山館内の大ホールにつめかけた満員の参加者に大きな感銘を与えました。

○ 平成十三年度に始められた「国語教員の会」も、本年度で第五回を迎え、八月五日（金）、午前の部では、本学科出身で中学・高校の国語科教師の諸先生による近況報告と本学への御要望を伺う懇談会、午後の部では、教職志望の在学生も多数参加し、松沼敦子先生（新制三十九回生、星野高等学校教諭）による教育活動報告「教室でもお芝居を楽しもう」が発表され、活発な質疑応答が行なわれました。

○ 国語国文学会の本年度の担当は、倉田先生、谷中先生、溝部さんです。（清水記）

◆研究発表会 発表者募集

- ・ 日 時 平成十七年十一月二十六日（土）
- ・ 発表時間 三十分、質疑十分
- ・ 応募資格 本国語国文学会の会員であること
- ・ 応募方法 四百字以内に発表要旨をまとめ、論題とともに申し込む。
- ・ 応募先 日本文学科研究室内「国語国文学会秋季大会研究発表者募集係」宛
- ・ 締切り 平成十七年九月二十八日（水）
- ・ 選考方法 国語国文学会において選考を行い、選考結果は後日、個別に通知いたします。

○会計より

振替用紙を同封いたしました。本年度会費「千円」の納入を十一月末日までにお願いたします。尚、今年度の会費を既にお納めいただいている方には振替用紙を同封しておりませんが、万一手違い等ございましたら、会までご一報くださると共に、何卒ご容赦くださいますよう、お願いいたします。

二〇〇五年九月一日

発行・日本女子大学日本文学科

国語国文学会卒業生の会

〒一一二八六八一 東京都文京区目白台三二八・一

日本女子大学 日本文学科内